

平成21年度 防災教育推進モデル校指定事業報告

小松島市坂野小学校

はじめに

近年、東北、特に日本海側で地震が多発していて、太平洋側においても今後30年以内に巨大地震の発生する確率は、「東海地震」87%、「東南海地震」60%、「南海地震」50%とされているが、最近はこの数値も少し高くなってきているようである。東海地震は、明日にでも発生しても不思議ではない状態である。また、東南海地震と南海地震は日本最大級の地震とされている。今まで発生した例によると、これらの地震は同時に発生するか、あるいは先に東南海地震が発生し、その後2年以内に南海地震が発生している事実があり、より注意が必要になる。

地震・津波が発生した時には「自助、共助」が必要とされている。発生した時にあわてないように、3日間程度の食料の備蓄、家族の集合場所、連絡方法、避難経路等、家族で話し合っておくことも大切である。

そこで、本校では、地震や津波に備えて自分の身を守り、自分で考え、行動しようとすることや、地域との連携が図れるように、全教職員の共通理解のもと、いろいろな取り組みを実践した。

事業実施計画

実施期日	実施内容
7月 2日	・防災シンポジウム，集団下校訓練 （南海地震の体験者の話，児童引き渡し訓練）
8月23日	・坂野・和田島地区合同避難訓練 （各家庭から学校へ避難，防災についてのDVD視聴，小松島市防災安全課の方の話，仮設トイレの設営，カンパンの試食，非常用飲料水の試飲）
8月31日	・避難訓練（地震想定）
10月14日	・徳島県立防災センター見学（1～5年） （防災ガイダンス，地震体験，消火体験，煙体験，風雨体験）
10月23日	・神戸市人と防災未来センター見学（6年）
1月 8日	・避難訓練（地震・火災想定）
（年間通じて）	・各学年で防災学習を実施（特活・生活科・総合的な学習の時間等） 1・2年...防災かるたづくり 3年...安全マップづくり 4年...「のりこえよう 南海地震！」（根上がりフェスタで発表） ・防災コーナーを設置（非常持出品・防災図書・防災資料の展示）

本年度の取り組み

1. 防災シンポジウム

7月2日，地域の昭和南海地震を体験された3名の方にパネラーになっていただき，コーディネーターの質問に答えていただいた。地震を体験した場所も違い，いろいろな話を聞くことができた。

・2階の戸棚の厚い壁が落ちてしまったが，地震の恐さを教訓として残そうとして，私の父親は修

理をしなかった。

- ・階段が上下に揺れ、足がかけられず、2階から降りられなかった。
- ・家の前の弁天さんの松が真っ赤に見えた。パチンと音がして道が裂け、歩けないので這いながら畑の方へ避難した。
- ・田んぼの稲の株から、水が噴き出してきた。前の海の水が全部ずっと引いて、今度は一尺ぐらいずつ綿を積むように水が増えてきて、道路を越えて水がきた。
- ・瓦が落ちてきたので、防空頭巾をかぶって外へ出た。家の屋根が波打っているのが見えた。
- ・天神さんの所の家が倒れ、大きな火柱が立った。揺れが少しおさまった時に、七輪（こたつ）を外へ出した。
- ・戦争の時の地域ごとの集団避難訓練が、地震の時にも役立った。
- ・はじめ戸が開かないぐらい大きく揺れて少しおさまったが、その後も長い時間揺れていた。戦争も恐かったが、南海地震もとても恐かった。

(児童の感想)



ぼくは、南海地震の時の話を聞いて、地震はこわいなあと思いました。物が落ちてきたり、下じきになったりするのとはとてもこわいです。地域の人々が、地震の時は、頭を守るためのヘルメットや、われたガラスから足を守るためのくつを用意しておくことが大切なことを教えてくれました。ぼくの家では、地震がおきた時のために、ヘルメットや食べ物・飲み物などを準備しています。でも、くつは用意していません。地震は、いつおこるかかわからないので、教えてくれた底の厚いくつを用意したいと思います。

(児童の感想)

今日は、地震のことについて3人の方が話をしてくれました。道がわれたり、家が倒れたりしたことを話され、「今から地震に備えてください。」とアドバイスを受けました。地震がいつおきても冷静に判断して、的確な行動をとりたいと思います。3人の話はとても勉強になって、改めて地震はこわいなと思いました。だから、地震に備えていつ地震がおきてもいいようにしたいです。

2. 坂野・和田島地区合同避難訓練

- (1)日 時 平成21年8月23日(日)午前8時00分～10時30分
- (2)実施場所 坂野小学校, 坂野小学校体育館
- (3)目 的 災害発生時に、地域住民との連携を図り、適切な判断の下に、迅速かつ安全に避難できるようにする。
- (4)災害の想定 平成21年8月23日午前8時、和歌山県潮岬沖8.0km、深さ2.5kmを震源としたマグニチュード8.0の地震が発生したとの想定で、自宅より坂野小学校へ避難する。
- (5)実施要項 地震発生・避難行動
 - ・8時00分 地震発生
 - ・8時10分 避難開始(各家庭から登校開始)
児童は、できるだけ保護者といっしょに徒歩で登校
自主防災会の方の指示、誘導に従って登校
 - ・8時50分 避難完了
全員が避難完了するまで、児童は教室で、保護者は体育館で防災についてのDVDを視聴

「非常持ち出し袋」等，防災グッズの展示を見学

避難完了後

体育館に朝会時と同じ隊形で児童は集合，整列

- ・ 9時00分 学校長あいさつ，自主防災会の方の紹介
- ・ 9時15分 小松島市防災安全課の方の防災の話



地震が起きたら，逃げ口確保
地震の後には，津波が来る
津波からは，逃げる，避難する
早く逃げるには，何も持たない
逃げる場所は，決めておく，高い所
大切な物は，日頃から考えておく
津波の力は，ものすごい
海に出ていたお父さんは，なぜ助かったか
イカが多く獲れる

- ・ 9時45分 仮設トイレの設営，見学
- ・ 10時15分 児童は各教室へ移動（保護者もいっしょに）
カンパン・非常用飲料水を試食・試飲
- ・ 10時30分 下校（保護者と一っしょに）

（児童の感想）



訓練には，自主防災会の方々や市役所の方が来てくれました。途中の交差点では，警察の方や交通指導員さんが見守ってくれていました。市役所の方のお話で，地震や津波のこわさを知りました。「シロのない海」というビデオも見せてくれました。おばあちゃんが引き返さなければ，お母さんもおばあちゃんも助かったのにと思いました。たとえ大切な物でも，命より大切な物はないと思います。もし地震がおこったら，教わったことをよく守り，安全に避難したいです。

（児童の感想）

わたしは，「シロのない海」のビデオを見て泣きそうになりました。地震でおばあちゃんとお母さんがなくなったからです。地震や津波はこわいなあと思いました。地震の時は，大事な物でも家に取りに帰らないで逃げなければいけないことが分かりました。ビデオの後，トイレやテントの作り方を見ました。簡単に早く作れるのにびっくりしました。教室では，カンパンを食べました。思っていたよりおいしかったです。大きな地震がおこった時の準備をしていないので，わたしの家でも早めにしておきたいです。もしもの時のために避難する場所も，家族で決めておかなければいけないんだなあと思いました。

3. 徳島県立防災センターの見学

10月14日，1年生から5年生までの児童が秋のバス遠足で，徳島県立防災センターを訪問した。防災ガイダンス，地震体験，消火体験，煙体験，風雨体験など，いろいろな体験を通して災害の恐ろしさを感じるとともに，災害から命を守る方法を知り，防災に対する意識を高めることができた。

災害の恐ろしさや，予想される災害の規模や現象を身近な問題として知ることによって，災害への備えを普段の暮らしのなかに，意識することができる。また，地震，津波，火災，風雨など，災害についての状況や行動について，実際に近い状態で体験し，その対応を，身につけることができる。さらに，

個人から家庭，学校，地域へ，災害に対する備えの大切さを広めていく防災意識が生まれ，はじめて被害を少なくできる。



(児童の感想)

防災センターで震度7の地震を体験しました。ゆれが激しく，とてもこわかったです。実際に震度7以上の地震がおきたら，パニックになり，何もできないだろうと思いました。そのためにも，日ごろの備えが大切だと思いました。

ガイドさんが，頭をクッションなどで守ることなどを教えてくれました。そのほか，避難の仕方など初めて経験をすることができてとても勉強になりました。



(児童の感想)

地震体験では，自分の身は自分で守ることや，ゆれが止まったのを確認してから，ガスを止めたり，逃げ道を考えたりした方がよいことを知りました。消火体験では，他の人に知らせてから何人かで火を消すのがよいということがわかりました。煙体験では，できるだけ煙を吸わないように，低い姿勢で逃げるのが大切だということわかりました。風雨体験では，風速30mの風だったけど，目が痛くなるほど強くて，手すりを持たずには立っていただけませんでした。

4. 神戸市人と防災未来センター見学

10月23日，6年生が修学旅行で神戸市人と防災未来センターを見学した。阪神・淡路大震災によって，壊れていくビルや高速道路の様子を再現した映像を見て，改めて地震の恐さと被害の大きさを感ずることができた。また，地震や防災に関する知識を展示コーナーや体験コーナーで体験しながら学習した。



(児童の感想)

「きゃーっ。」「こわいー。」「はよ出たいー。」1.17シアターのスクリーンに映し出された大地震の映像。グラグラと地面が大きくゆれ，ビルなどの建物や丘がくずれ。するとパッと周りが暗くなり，7分の上映が終わった。とびらがギョッと開き，震災直後の町へと向かった。震災直後の町では，アパートがななめを向いていたり，ガラスやナイフが地面にささり，車はつぶれて火災が発生したりしていた。横からは，ネコや人の声が聞こえ，とてもおそろしかった。

次に展示コーナーや体験コーナーへ行った。わたしはここで学んだことを，いつ起こるか分からない地震に備え，いつまでも忘れないようにしたい。

5. 安全マップづくり

3年生は，総合的な学習の時間で，地域の安全を取り上げ，安全マップを作成することになった。グループごとにそれぞれの地域を探検し，子どもたちの目線で危険箇所を調べ，調べたことを整理して，それぞれの地図に書き込んでいった。地震が起こった時に安全に逃げるための避難経路など，今まで気づかなかったことがいろいろわかってきた。



(児童の感想)

安全マップづくりをして、地震がくるとあぶないことがわかりました。へいやブロックがたおれてきて下じきになるからです。ひなんする時にも通れなくなってしまうかもしれません。電柱なども地震では折れたり、たおれたりして感電したり、下じきになったりするのです、とてもきけんです。電線を地下にうめているのも、地震にそなえるために大切なことだと思います。

(児童の感想)

ぼくは、安全マップづくりであぶない所をさがして、マップにうつしていききました。ぼくもあぶない所は気をつけたいと思います。もっとあぶない所を見つけたいなと思いました。安全マップが人の役に立ったらいいなと思います。みんなが知っているのと地震の時も安心です。

6. のりこえよう 南海地震 ～4年生からのメッセージ～

4年生は、徳島県立防災センターでの体験をもとに、総合的な学習の時間「のりこえよう 南海地震～4年生からのメッセージ～」へと学習が広がり、グループごとにテーマを決めて、災害から命を守る方法などについて調べ、根上がりフェスタ（学習発表会）で発表した。

メカニズムについて

日本には4つのプレートがあるため、地震が起こりやすい。プレートがもぐって、はね返った時に地震が起きる。

阪神大震災...震度7，マグニチュード7.3 南海地震...マグニチュード8が予想されている。

津波について

津波の速さ...ジェット機よりも速いスピードでやってくる。

津波の高さ...約10メートルぐらい。壁のようになって押し寄せてくる。

すぐに、高い丘やしっかりとした建物の屋上に避難しましょう。

火災について

- ・ゆれている時に、無理に火を消そうとせず、ゆれがおさまってから消しましょう。
- ・燃え始めたら、すばやく消しましょう。
- ・大声で周りの人に知らせましょう。
- ・なるべく、電気製品の電源を切りましょう。

ライフラインについて

- ・水道 飲み水...1日一人3リットル必要。ふだんから、水をためておこう！
- ・ガス すぐに、ガスの元栓を閉めよう。ガスもれしていれば、ドアや窓を開けて外へ出そう。
- ・電気 電気は使えなくなるので、それに代わるものを準備しておこう。

耐震について

家の中での安全

- ・家具が出入り口をふさがないようにしよう。
- ・ストッパーなどを使い、食器が飛び出さないようにしよう。

避難の仕方

避難する時に気をつけること

- ・地震が起きたら、机の下にかくれて机のあしを持ちましょう。
- ・蛍光灯や窓からはなれましょう。



- ・けがをしないように，上ぐつを必ずはきましょう。
 - ・かたい物で頭を守って避難しましょう。
 - ・おさない，かけない，しゃべらない，もどらない。
- 家族で避難場所までの道順を話し合っておきましょう。



手当の仕方

骨折...添え木などで固定する。

出血...清潔なハンカチなどでしっかり押さえる。

やけど...早く水で冷やす。水ぶくれはやぶらない。

連絡方法について

公衆電話...テレホンカードは使えない。十円玉で使える。緊急ボタンを押すと使える。

災害伝言ダイヤル(171) いない

わすれて 171

防災グッズについて

- ・ひじょう持ち出し品とひじょうびちく品にわけておくと便利です。
- ・カンパンや飲料水，かんづめなどのひじょう食品を用意しましょう。
- ・頭を守るための防災ずきん，人を助けるための軍手やロープが必要です。
- ・ラジオやトイレトペーパー，新聞紙などが役立ちます。

(児童の感想)

わたしは，ライフラインのことについて調べました。ライフラインのことを知って，南海地震がおきる前に，水や電気，ガスなど必要になるものは準備しておきたいです。理由は，なくては生きていけないものや必要なことがたくさんあるからです。わたしは，これからも南海地震はいつおこるか分からないので，油断せずに，いつ南海地震がおきてもいいように，ちゃんと準備しておきたいです。

(児童の感想)

ぼくは，「のりこえよう 南海地震」を学習して，南海地震はとても大きいことが分かりました。ぼくは，おじいちゃんとおばあちゃんに南海地震のことを少し聞きました。おじいちゃんもおばあちゃんもすごかったと言っていました。地震がおきた時のために，防災グッズのことについて調べました。防災グッズは思ったより，いっぱいありました。ぼくが知っていたのは，カンパンや飲料水ぐらいしかありませんでした。防災グッズには，ヘルメットがありました。ヘルメットは，物が落ちてきた時に頭を守るために必要な道具です。

7. 運動会 3・4年種目 「地震発生！ひなんせよ」

9月27日，坂野校区合同秋季大運動会において，3・4年種目「地震発生！ひなんせよ」が実施された。

『近い将来，起こると言われている南海地震の大きな揺れや津波など，いつきてもあわてないように，今日は3・4年生が訓練をします。「地震発生！」子どもたちの足下はふらふらです。落ち着いてネットを上手にくぐり抜け，防災グッズを持って避難します。さあ，どんな防災グッズを持って避難するのでしょうか。』

(児童の感想)

わたしは地震がおきた時，どんな物を持っていったらいいかがよくわかりました。カンパンや水，防災ずきんやヘルメットなどたくさん物を持っていかなければなりません。地震がおきる前にきちんと用意をして，地震にそなえたいと思います。

(児童の感想)

ぼくは、「地震発生！ひなんせよ」という運動会の競技をして分かったことは、地震で家を出てひなんしていく時にいろいろな道具がいるということです。ぼくの場合、かんづめやねぶくろ、水やかいちゅう電灯、ラジオやケータイです。気をつけたいことは、きちんと準備をして、地震がきても落ち着いて行動することです。

8. 防災かるたづくり

1・2年生は、生活科の時間を使って、楽しく防災について考えることのできる防災かるたづくりに取り組んだ。「あ」から「わ」までの44枚の絵札・読み札を1・2年生で分担して8つ切りの厚紙で作成した。言葉や絵をしっかりと考えながら、防災かるたづくりを通じて子どもたちの防災意識を高めることができた。そのかるたを使って防災かるた取り大会を開催したことにより、さらに防災意識の啓発や浸透を促すことができた。

(子どもたちが考えた防災かるたの言葉)



し...じしんだ かくれろ つくえのしたに
つ...つなみが きたら たかいところに すぐにげよう
ひ...ひなんくんれん おさず しゃべらず すぐひなん
も...もしものために じしんじゅんびを しておこう
ゆ...ゆれが とまった にげばを つくれ
よ...よういしょう ぼうさいグッズ

(児童の感想)



ぼうさいかるたを作る時、じしんや火事がきたら、どうしようかなと思って作りました。本当にきた時は、つくえの下にかくれたり、ドアを開けたりする理由もくわしく分かりました。ぼうさいかるたとり大会の時、言葉や絵が上手にかけていたのでうれしかったです。じしんや火事の時、いのちをまもれるように、これからもぼうさいのべんきょうをがんばりたいです。

9. その他

(1) 避難訓練

8月31日(月)・・・地震想定 1月8日(金)・・・地震・火災想定

地震や地震にともなって火災が発生したことを想定した避難訓練を、授業中に実施した。地震発生を知らせる緊急放送を聞いて、机の下にもぐるなどの避難行動の後、防火扉が閉まった状態で運動場まで安全に避難するなどの訓練を行った。「出口の確保をする」「頭を保護する」「口をハンカチなどでおさえる」「避難経路と避難後の集合場所を知っておく」「おすな、かけるな、しゃべるなをまもる」など、避難についての基本的行動様式が身に付いているか、子どもたち自身がきちんと確認することができた。

(2) 防災コーナー

防災コーナーを設置し、非常持ち出し袋・非常食・防災に関する本・防災マップ・防災に関するポ



スターやパンフレットなどを常時展示している。休み時間には、子どもたちが集まってきて、防災の本を読んだり、展示物を見たりすることが多くなっている。保護者や地域の方も来校した時に展示を見ていただき、防災意識の啓発につながっている。

おわりに

子どもたちは、様々な学習や体験を通して、地震や津波が身近な災害であることに気づき、意欲的に調べ、体験活動をすることができ、防災に対する意識が高まってきた。特に、合同避難訓練を行ったことにより、次に起こると予想されている南海地震への関心が高まった。また、防災センターを見学したり、南海地震の体験者の話を聞いたりしたことで、災害の時の対応の仕方について身につけることができた。地域の子どもが共に学ぶ場を持ったことで、地域での防災活動の大切さを知ることができた。子どもたちが発達段階に応じて系統的に取り組める学習内容を考え、学習したことをどのように定着させていくのか考えていかなければならない。高まってきた防災に対する意識が継続していくように、機会をとらえて、話し合ったり、体験活動を取り入れたりしていく必要がある。

保護者も南海地震についての話を聞いたり、家族で防災について話し合ったりすることで、防災に対する意識が高まってきた。しかし、保護者の防災に対する意識には差があるため、今回のように家庭で話し合ったり、できることを実践したり、避難訓練に参加したりする機会を設け、家庭への啓発を図っていきたい。

この取り組みが、子どもたちの心に残り、いざというときに自分の身を守る行動ができ、そのための備えができるように、今後も防災に対する取り組みを続けていきたい。